

# Agilent 残留溶媒分析ソリューション

アジレントの優れたGC技術により、信頼性の高い残留溶媒分析を実現します。ヘッドスペースと液体注入オートサンプラの両方を1台のGCで入れることができます。1個の注入口での共存も可能です。

## 基本システム

Agilent 7697ヘッドスペースサンプラ(12検体仕様)とAgilent 7820 GCを組み合わせたベーシックシステム: 一度の注入で、極性の異なるカラムによる分析が可能



## 多検体対応システム

Agilent 7697ヘッドスペースサンプラ(111検体仕様)とAgilent 7890 GCを組み合わせたハイスループットシステム: 一度の注入で、極性の異なるカラムによる分析が可能



## Agilentソリューションのポイント

医薬品中残留溶媒分析では、分析データの信頼性を確保するため、いくつかの必要条件(システム適合性確認)が求められます。

項目	USP467におけるシステム適合性	Agilentソリューションのパフォーマンス
感度	1,1,1-トリクロロエタン $S/N > 5$	水溶性/非水溶性ともに $S/N > 70$ 以上の実績
分離度	アセトニトリル vs ジクロロメタン 分離度 $> 1.0$	水溶性/非水溶性ともに 分離度 $1.8$ 以上
再現性	個々のピーク面積の相対標準偏差 $RSD \% < 15$	水溶性/非水溶性ともに $5\%$ 以下を達成

Pass  
Pass  
Pass



Agilent Technologies

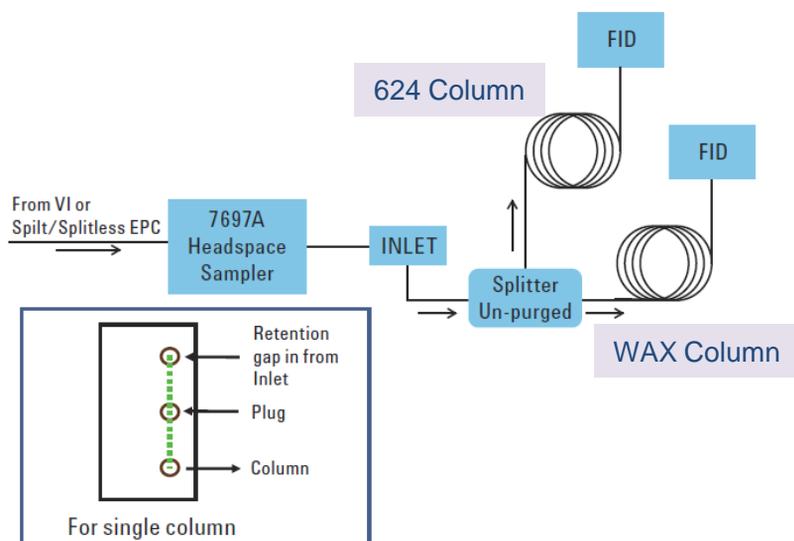
# Agilentソリューションの更なる拡張性

アジレントGCの多彩な拡張性により、残留溶剤分析を高効率化。

## デュアルカラムシステム

操作法A (624系カラム)で規定以上のピークが確認された場合は、操作法B (Wax系カラム)で再確認する必要があります。そこでデュアルカラムシステムを用いた同時分析により、分析にかかる工数を大幅に削減します。

### デュアルカラム+デュアルFID



## HSS-GC(FID)/MSDシステム

実サンプルの測定では、標準試料のクロマトでは確認できなかったピークが多く検出されます。こうしたピークは通常FIDだけで同定することができません。そこで、Agilent独自のCFT技術により不測のピークの同定と微量な不純物の高感度な検出のために質量分析計を併用できます。

残留溶媒はもちろん、遺伝毒性不純物、反応中間体、溶出物/浸出物の分析などに適用できます。



Agilent Technologies